

平成30年度 学校訪問のまとめ

【学校教育係】

○確かな学力

①「伸ばしたい資質・能力」を明確にした「考え、表現させる授業」の充実

ア：児童生徒の気付きや疑問を引き出して課題を設定する。
イ：自分なりの考えを伝え、解決に向けて話し合う場が設定されている。
ウ：指導者が“答え”でなく“適切な支援・助言”を与えてくれる。

第142号で提示した
「主体的・対話的な授業」
への条件

計画訪問で公開していただいた授業では、イの「話し合い」がねらいの達成に迫るために設定されている授業が多くなったと感じています。さらによりよい授業にするためにはウの充実が必要です。児童生徒がねらいに向かって互いの考えをどう整理するのか、具体的にイメージしておきましょう。

②教員の協働による積極的な授業改善

各学校において一人一授業を実施しながら、協働的に授業改善を進めていただきました。単時間でより質の高い協議にするために、授業の柱（めあて→中心活動→振り返り）や主体的・対話的な活動を促す上での支援等について、改善点を中心に協議をお願いします。吾妻教育事務所では組織的に授業改善を一層進めていただけるよう指導事例を作成しました。記述部分を削減し、より「授業の柱」が際立つようにしましたので、構想段階から同僚や管理職と相談する際に、積極的にご活用ください。

○豊かな心

①一人一人に居場所がある学級経営の充実

「一人一人に役割をもたせ集団に貢献できる場」や「共感的な人間関係を構築するためのグループ活動」を意図的に設定するなど、居場所づくりのための様々な取組が見られました。今後も児童生徒一人一人が活躍でき、互いのよさを認め合える学級経営をお願いします。



②いじめ・不登校の未然防止に向けた組織的な支援体制の充実

いじめや不登校の未然防止に向けた取組を組織的に進めている学校が多く見られました。特に児童生徒のわずかな変化や心情を見取り、積極的にいじめを認知し、丁寧な指導・支援につなげている学校が増えました。来年度に向け、校内の支援体制や組織的な動きについて見直しや改善をしていただき、組織として「魅力的な学校づくり」を進めるようお願いします。

○健やかな体

①組織的・計画的な健康づくりの充実

第3次群馬県食育推進計画「ぐんま食育こころプラン」では、平成31年度までに全ての小中学校で食に関する指導の「学年別年間指導計画」を作成し、推進するよう目標を掲げています。管内のほとんどの学校で作成されましたが、未作成の学校もあります。下記 URL に掲載されている作成例を参考に作成をお願いします。体育（保健体育）科、家庭科、特別活動など横断的な視点をもって計画・実践していただくことで、健康教育の充実につながります。【http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?page_id=24 参照】



②自校の課題に基づいた安全管理・安全指導の充実

児童の登下校時の安全を確保するため、国が示した【防犯プラン】に基づき、教育委員会や警察と連携した通学路点検が多くの学校で行われました。既存の協議の場を生かすなど地域連携の場を構築し、危険箇所の共通理解を図り、対策を協議しておくことが求められています。

○幼児教育

①幼児が遊びに没頭できるような環境の構成

友達と交流しながら遊びを広げたり、黙々と遊び込んだりする幼児の姿が多くの園で見られました。その姿の陰には、幼児の思いや願いを把握すると同時に、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を意識しながら幼児にとって必要な体験ができるような環境の構成や再構成をする先生方の努力があるのだと感じました。引き続き、幼児の実態をもとに遊び込める環境の構成をお願いします。



②幼児の思いを受け止めた適切な援助

先生が「こうすれば上手くいくよ。」と先回りして技術を教えるのではなく、幼児が試行錯誤し、困難を乗り越えられるよう時間や場を確保したり、考えさせる声かけをしたりしている場面が多く見られました。また、幼児同士のトラブルや葛藤の場面を見逃さず、幼児が自己発揮しながら、折り合いをつけられるよう支援したり、時には見守ったりする様子が見られました。引き続き、「共感」「寄り添う」「励ます」などを大切にされた援助をお願いします。